

前回検討会における主なご意見 (群マネ合同検討会：R6.12.16)

前回検討会における主なご意見(R6.12.16)

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
1	群マネより手前の問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体職員は<u>苦情処理にとんでもない労力が割かれていてそこをフォローしないと仕事にならない。</u> ・そのため、ビフテキ(群マネなど)を見せられても食えないよと、苦情対応等で体が弱っていておかゆで体を治したいという状態。<u>群マネより手前のところで足踏みしている状態がほとんどじゃないかと思うが、このベーシックなところを解決すべき。</u> ・<u>統廃合するかどうかは現場で市民と相談してやれよと言われても動けない。どんな条件になるとコストパフォーマンスからしてもこの橋は維持できないことを示すとか、彼らが困っていることに対する答えが出るような手助けが必要であり、国交省が積極的な意思を示さないと問題の先送りをしているだけだ</u>と思う。 	群マネよりも手前の課題(道路通報対応の効率化や道路橋の集約撤去等)に関して、道路局とも連携して検討を進める。
2	メッセージの発信	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>群マネをやることは自治体の手助けにはなるけど、それだけでは足りないというのが痛感されているというのがこの1年の経験だ</u>と思う。<u>緊急対策的な、かつての「最後の警告」のようにもう1回力強いものも出しつつ進めてもらえると希望も見えてくる。</u> ・<u>主として小規模自治体に対しては、もはや緊急事態であると宣言した方が良い。</u> ・群マネも一つの手だが、<u>苦情処理こそまとめてシステム化しましょうとか、コスト感覚なしに現状維持というのは現実ではないという宣言を国が積極的に関与することをした方が良い。</u> ・さらに一番問題なのは、自治体に緊急事態であるという自覚があるかないか。<u>自覚があれば救いようがあるが、何も考えていないところは朽ち果てていくのみなので、そこを抽出し警告をしていくことが一番重要。</u> 	インフラメンテナンスに関するメッセージの発信について検討を進める。

前回検討会における主なご意見(R6.12.16)

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
3	全国自治体のインフラメンテナンス見える化	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きが約1,700の自治体の誰にどういうメッセージ、どういうものを届けたいのかという所を自治体側の目線に立って整理することが必要。 ・モデル地域、先行事例、それ以外の自治体など、1,700の自治体で大変な状況がどのくらい違うのか、差を抱えているのかという認識を我々も押さえておく必要がある。インフラの量、質、予算、体制、地元事業者の状況など、どのような分布となっているか整理しても良いかと思う。特に、人口の少ない自治体の分け方は細かく区分した方が良い。 ・小規模自治体を例えば3万人でくると、橋梁数が少なかったり、環境がマイルドだったりすると、予防保全で上手くいっているところもたくさんある。3万人以下の全てがダメということではなく、事後保全に追われている自治体が全体の20%、予防保全でなんとかいけそうな自治体が40%程度と評価している。3万人以下でも20%の自治体をどうするかという絞られてくる。 ・全国津々浦々を見える化すると、大変な状況の中でも施策をやりつつある自治体や何もしていない自治体というのも見えてきて、性善説的に自ずから対応してくれるようになり、そこに国民が注目するというのが理想形。 ・1万未満の自治体については、総務省が過疎対策事業債の制度を持っており、そこからアプローチすることも参考になると思う。 ・自治体が求めているのは判断基準や説明材料へのサポート(市民や議会)。客観的なデータのカルテのようなものがあると良いと思うし、自治体の説明に役立ててもらえるものが作れると良いと感じた。 	<p>ご意見も踏まえて、全国自治体のインフラメンテナンス見える化の分析に向けた検討を進める。</p>

前回検討会における主なご意見(R6.12.16)

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
4	自治体への支援体制 (人の群マネ)	<ul style="list-style-type: none"> ・群を築けないスタンドアロンの自治体も結構あり、そこにも何らかの形でサポートしていくことも大事だと感じている。どこに誰に聞きに言って良いか分からないという声もよく聞く。 ・自治体の担当者がチェンジしたときのマインドが変わったりということもあり、<u>継続性</u>というキーワードも重要。 ・インフラ老朽化に対しては、この先もう自治体はあまり時間が無いと思うので、<u>アドバイザーを何人か設定して、この人に相談してくださいとした方がとりあえずは効率が良いのではないか。</u> ・自治体はマネジメントまで至らず、点検の段階で止まってしまっている。その先に<u>長期スパンで何をやりたいのか考えないと、単発の事業で終わってしまい、昔のやり方と変わらない。</u> 	「新技術導入に関するハンズオン支援事業検討会」とも連携して検討を進める。
5	手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・群マネの手引きには、<u>フロントランナーの皆さんの上手いかなかったことからの教訓や、こういうところを留意すると上手いくということ</u>をコラムや付録で付記してもらえると理解が深まる。 ・手引きで事例を示して参考にしてということは誰でも出来ると思うが、<u>もっと国交省自身が我が事として市町村の苦悩に取り組まないといけない</u>と思う。 ・手引きは、<u>昼休みに昼飯を食べた後にパラパラと読めるぐらいの薄いものにしないと職員は読まない。</u> 	ご意見を踏まえて、手引きの検討を進める。

前回検討会における主なご意見(R6.12.16)

No.	分類	検討会の主な意見	対応方針
6	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>市町村合併で、単独の自治体でもすでに「群」だという自治体もあり、合併前の旧態が継続されているケースもある。</u> ・<u>管理者の意識が重要。橋梁判定のⅢが多い・少ないという議論があるが、本当にⅢなのかは自治体によって温度差があり、点検がきちんと出来ているか疑わしい</u>と思っている。<u>それ故に自治体のインフラメンテナスの問題は難しいと感じている。</u> ・<u>日本の包括業務では大きな修繕が入るスキームが少ない。その要因について、既存制度の使いにくさなど自治体へアンケートしていただきたい。</u>特に、<u>複数年契約に対する補助金の使いにくさなど個々に聞いているケースもある。</u> ・<u>発注者側だけでなく、パートナーとしての受注者がいないとそもそも回らない。群マネや災害対策も含め、地元の建設業やコンサルタント業を今後どういう方向に誘導していくべきか。</u>従来の単にキープすれば良いというものでもないと思う。 ・<u>ウォーターPPPの企業とも話すと薄利だと聞く。民間企業へのインセンティブも検討いただくと良い。</u> 	<p>ご意見も踏まえて、手引きや関連施策の検討を進める。</p>

【全国自治体の インフラメンテナンス見える化】

手引きで対象とすべき自治体像の議論(小規模自治体)

群マネより手前の
問題への解
(住民からの苦情対応、
橋梁の集約・撤去等)

群マネの
手引き

自治体への
支援体制
(人の群マネ)